

「大和市財政健全化ビジョン」を策定

問 市役所財政健全化プロジェクト ☎(260)5318 📠(261)4592




令和6年度決算において、市の財政状況は非常に厳しい状態にあることが顕著になりました。そのため、市は財政健全化に向けて、現状に至った分析から今後の取り組み方針を定めた「大和市財政健全化ビジョン」を策定しました。今号では、同ビジョンの概要をお知らせします(全文は、右のコードからごらんになれます)。

1. 何が問題なのか

身の丈を超えた行政サービス

- 経常収支比率(毎年入ってくる自由に使えるお金に対し、必ず支出しなければいけないお金の割合)が100%を超えています。
- このまま何も対策をしないと、財政調整基金(貯金)が枯渇してしまうおそれがあります。

サラリーマン家庭に例えると、食費や教育費、住宅ローンなどの支払いが、給料では足りなくなっている状態です



貯金を取り崩して生活してきましたが、このまま何も対策をしないと、貯金もなくなってしまいます

2. 何が原因なのか

義務的経費が多い歳出構造

- 義務的経費(扶助費、人件費、公債費の合計)の支出が、歳出全体の6割を超えています。

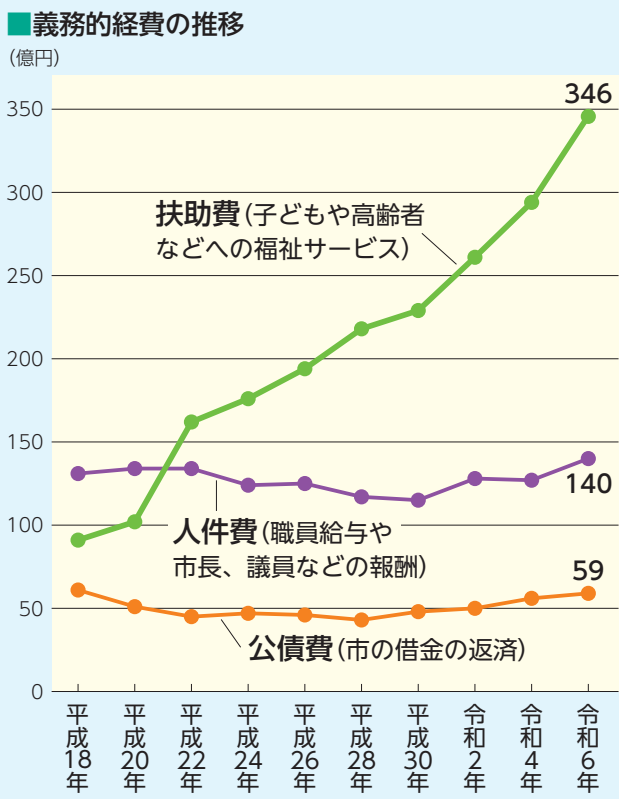
■ 県内類似団体※との比較(令和6年度) (億円)

	義務的経費			義務的経費／歳出合計
	扶助費	人件費	公債費	
大和市	346	140	59	60.2%
小田原市	247	158	61	54.3%
平塚市	328	169	62	52.1%
茅ヶ崎市	280	160	59	50.1%
厚木市	298	169	62	48.4%

※人口と産業構造が似ている団体

扶助費は大きく伸びていますが、人件費と公債費は他市と比べて少ないです



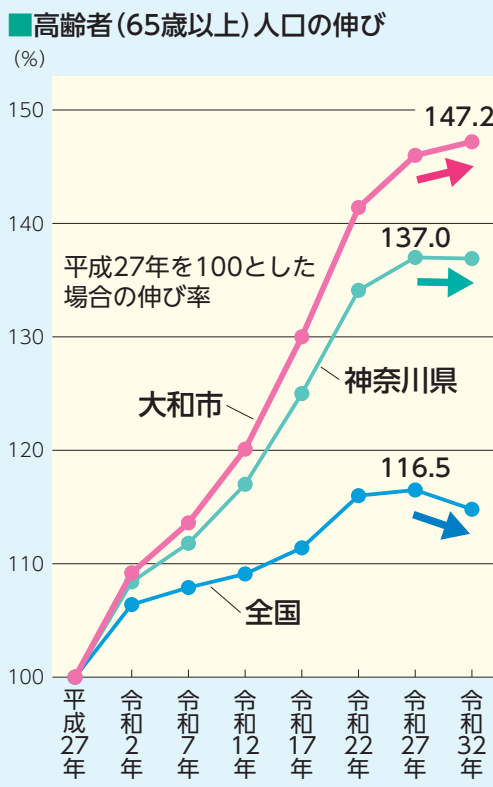


財政負担が増加していった主な要因

- 市の裁量なく増加していく経費として、高齢者数の増加などによって社会保障費関係の支出(介護会計への繰出金や障害福祉サービスの扶助費など)が増加しています。
- 市の裁量によって増加している経費として、待機児童対策としての保育定員の拡大や、子ども医療費の助成対象の拡大、シリウスやポラリスなどの大規模施設にかかる維持管理経費や建設時に借り入れた市債の償還が増加しています。
- 最近の社会情勢として、人事院勧告に伴う人件費の増加のほか、物価や労務単価の上昇などにより業務委託や施設管理などにかかる委託料も増加しています。

このように、支出が増加していく社会情勢のもと、直面する市民ニーズに合わせ、政策の実現を優先させてきた過程において、財政規律が失われていきました。

大和市は、これからも高齢者人口が増えていく見込みです



3. 今後どうしていくのか(取り組みの方針)

総合計画に掲げる施策の着実な推進および財政規律を確保した行財政運営を目的とした「(仮称)大和市財政健全化プラン」を策定し、財政の健全化に取り組んでいきます。

※同プランは今年11月までに策定する予定です。同プランに基づいて令和9年度および10年度の予算を編成していきます。

(仮称)大和市財政健全化プランで定める取り組み

項目	主な内容
財政見通しの作成	令和8年度当初予算データに基づく最新の令和9・10年度の財政見直しを作成
歳出事業の見直し	「ビルド&スクラップ」を基本的な考え方とし、事業を実施(ビルド)する場合は、施策を推進するうえで優先順位が低い他の事業を廃止・縮小(スクラップ)
歳入確保策の充実	<ul style="list-style-type: none">● 受益者負担の適正化方針運用の厳格化● 自主財源の確保(ふるさと納税などの寄附、ネーミングライツ、広告など)● 積立基金の積極的な活用● 市税等の収入未済額の縮減
経営基盤強化／財政規律確保のガバナンス向上	<ul style="list-style-type: none">● 将来的な人口減少を見据え、公共施設の縮減指針「(仮称)再配置計画」を策定● 基礎自治体としての持続可能性を高めるための行政経営力の向上● 適切な行財政運営を行うガバナンス体制の構築の検討